

# 日医ニュース

No. 1367  
2018. 8. 20

発行所 **日本医師会**  
Japan Medical Association  
〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16  
電話 03-3946-2121(代)  
FAX 03-3946-6295  
E-mail www.info@po.med.or.jp  
http://www.med.or.jp/  
毎月2回 5日・20日発行 定価 2,400円/年(郵税共)



日本医師会キャラクター「日医君」

**トピックス**

- 加藤厚労大臣に医師の働き方改革に関する意見書を提出 … 2面
- 定例記者会見 … 3面
- 役員紹介<副会長> … 4面

## 日本医師会役員就任披露パーティー

# 安倍総理始め 多くの参会者が 第4次横倉執行部の門出を祝う



加藤厚生労働大臣



二階自由民主党幹事長

新役員一同は午後5時、盛大な拍手に迎えられて登壇。中川俊男副会長が、「横倉執行部として4期目となるが、皆様方のご支援のおかげで順風満帆の船出をすることができた。本日は時間の

許す限り楽しい時間をお過ごし頂きたい」と開会を宣言し、パーティーはスタートした。冒頭、あいさつに立った横倉義武会長は、まず、平成30年7月豪雨で被害に遭われた方々にお見舞

いを述べ、「人づくり」を、会務運営に当たっての基本方針としている。今後も「国民と共に歩む専門医集団」として、国民の健康・生命を守っていきたく、ご支援と協力をお願いしたい」と述べた。



安倍内閣総理大臣

「継続と改革」を掲げて会長に就任してから、最大の課題は地域医療を守ることであったとし、これまででかかりつけ医をもつことを呼び掛けることも、かかりつけ医機能の維持・向上のために「かかりつけ医機能研修制」を開始したことなど

を説明。「今期については、かかりつけ医を中心とした『まちづくり』、医療政策をリードし続ける『組織づくり』、人材育成の視点に立った『人づくり』を、会務運営に当たっての基本方針としている。今後も「国民と共に歩む専門医集団」として、国民の健康・生命を守っていきたく、ご支援と協力をお願いしたい」と述べた。

日本医師会役員就任披露パーティーが7月24日、都内のホテルで開催され、第142回日本医師会定例代議員会で選任・選定された第4次横倉執行部が披露された。当日は、現役閣僚や与野党の国会議員を始め、約1000名の出席者が集まり、新執行部は祝福と激励を受けた。

しなくてはならない」とした上で、日医主催の「医師の働き方検討会議」が取りまとめた意見書(2面参照)を踏まえ、来年3月までには考えをまとめていきたいとした。また、(2)については、医療法及び医師法の一部を改正する法律案が国会で成立したことを報告。法の円滑な遂行に向けての協力を求めた。

(2面に続く)







# 横倉会長

## 健康・医療戦略推進本部で講演

### 「次世代医療基盤法」について 国主導による徹底的な説明を求める

生涯健康事業の実現と医療ビッグデータの活用をテーマとした講演を行った。

同会長は、まず、日医として「本年2月16日に閣議決定された『高齢社会大綱』で示された数値目標の達成に向けて、健康寿命が延伸される施策をこれまで以上に推進していく」と述べるとともに、

「報告の安全な蓄積に基づくデータの活用が促進されることによって、『国民への保健医療福祉サービスの提供の質の向上や、国民の健康増進、健康寿命の延伸を通じた社会保障の適正化並びに、海外に向けても、これらの基盤や体制構築の支援等の実現が期待できる』と述べた。

「演を受け、『次世代医療基盤法』が施行され、医療情報をビッグデータとして活用することが可能となった。こうしたデータをフル活用し、新たな医療技術の開発につなげていけるよう、横倉会長を始めとした医療界の方々と共に努力していく」との方針を示した。



安倍総理の前で講演する横倉会長（右端）

第22回健康・医療戦略推進本部（本部長：安倍晋三内閣総理大臣）が7月25日、総理官邸で開催された横倉義武会長が、「生涯健康事業の体系化」の重要性を訴えてきたことを紹介。「今後は一元的に管理されたデータを個人ごとに本人の閲覧を可能

にするようにすべきであるとの見解を示し、『国民一人ひとりの生涯を通じて健康管理に資する取り組みにつなげるために、健診・検診から得られたデータについて、厳格な個人情報保護の下で一元的に管理し、個人々の健康、保健、医療のために活用するシステムづくりが必要である』と主張した。

東京医科大学が医学部医学科の一般入試において、平成23年度以降、女子合格者を全体の3割前後に抑えることを目的として、女子受験生の得点を一律に減点していたと報道がなされたことを受けて、日医では8月3日、横倉義武会長名の見解を取りまとめ、公表した（別掲）。

「医師の場合は確かに出産、子育て等によって離職、あるいは休職せざるを得ないケースがあるが、今回のように入試の段階で性別のみを理由に調整をするようなことは、平等性の観点から許されることではない」と指摘。「むしろ女性医師の就業継続、復帰支援（再

## 東京医科大学医学部医学科の一般入試の得点操作報道に関する見解を公表

（8月3日）



## 待合室等に掲示して下さい

「日本医師会 赤ひげ大賞」では、地域で活躍されている医師に対する患者さんからの応援メッセージを募集しています（今号13面）。本ポスターを待合室等に掲示して頂くなど、メッセージ募集にご協力をお願いいたします。なお、日医ホームページ（<http://www.med.or.jp/people/akahige/>）からもダウンロードが可能となっています。

日医広報課

「赤ひげ大賞」は、地域で活躍されている医師に対する患者さんからの応援メッセージを募集しています。本ポスターを待合室等に掲示して頂くなど、メッセージ募集にご協力をお願いいたします。

その上で、「女性医師の出産や子育て等によって離職、あるいは休職せざるを得ないケースがあるが、今回のように入試の段階で性別のみを理由に調整をするようなことは、平等性の観点から許されることではない」と指摘。「むしろ女性医師の就業継続、復帰支援（再

平成30年8月3日

東京医科大学医学部医学科の一般入試の得点操作報道に関する

日本医師会の見解

日本医師会会長  
横倉 義武

東京医科大学が医学部医学科の一般入試において、2011年度以降、女子合格者を全体の3割前後に抑えることを目的として、女子受験生の得点を一律に減点していたとの報道がなされています。

現在、内部調査中とのことですが、これが事実であるとするならば、入試の段階で男女差別が行われていたことになり、受験生に対する公平性、平等性を欠く行為と言え、日本医師会としては大変遺憾に思います。

女性医師の場合は確かに出産、子育て等によって離職、あるいは休職せざるを得ないケースがありますが、今回のように入試の段階で性別のみを理由に調整をするようなことは、平等性の観点から許されることではありません。むしろ、女性医師の出産や子育て等を前提として、短時間労働の導入や当直の軽減、院内保育施設の整備など、医療現場で女性が働きやすい環境整備を進めることが重要であると考えます。

日本医師会では、毎年、都道府県医師会の協力の下、女性医師を取り巻く環境の改善と共に、男性医師の意識改革を目指して「男女共同参画フォーラム」を開催している他、平成19年1月30日に開設した「日本医師会女性医師バンク」による就業継続、復帰支援（再研修を含む）を始めとした日本医師会女性医師支援センターを通じた各種事業により、女性医師の活躍を支援しておりますが、今後もその充実に向けて参画所存です。

今回の件につきましては、東京医科大学による真相の究明はもちろんのこと、所管省庁である文部科学省に対しても、徹底した調査と厳格な対応を求めたいと考えます。

# 武見フェロー2名が研究成果を発表 2017~2018年度武見フェロー帰国報告会



△は、1983年に故武見太郎元日医会長の「国際保健における医療資源の開発と配分」の構想に着目したハーバード大学が、日医の協力の下、同大学公衆衛生大学院にその名を冠して設置した学際的研究プログラムであり、日医から毎年2名の研究者を派遣している。

報告会は道永麻里常任理事の司会の下、横倉義武会長を始めとする日医役員、日本製薬工業協会、武見フェローOB、日医総研研究員ら71名が出席した。

冒頭あいさつした横倉会長は、武見プログラム

は35年にわたり、途上国を主とした50を超える国から270名超のフェローが参加し、国際保健、公衆衛生を学ぶというユニークなプログラムとして、ハーバード大学においても高い評価を受けていることを紹介。今後も、武見フェローが地球規模での国際保健と住民の健康水準の向上に寄与すべく活動していけるよう支援していくとした他、製薬協に対して、本プログラムへの財政支援に感謝するとともに継続した協力を求めた。

報告では、まず、武藤氏が「Developed HIC and Its Beyond—国民皆保険制度のさらなる有効活用をめざした医療機関・職域（C2C）連携基盤の評価」と題して、全国80健康保険組合の健診及びレセプトデータベースから、健診で指摘された未治療者の医療機関受療行動を解析した結果を紹介した。

続いて、國枝氏が「なぜ予防接種をするのか？世界と日本の現状から」と題して、西アフリカのニジエール共和国で行った母親へのワクチン接種行動に関するアンケート調査の結果から、教育レベルと接種率に相関があることなどを解説した。

2017~2018年度の武見フェローである武藤剛氏（順天堂大学医学部衛生学講座）並びに國枝美佳氏（東京大学大学院医学系研究科国際地域保健学教室客員研究員）による帰国報告会が7月24日、日医会館で行われた。

## 案内



ハーバード大学  
T.H.Chan公衆衛生大学院(HSPH)  
武見国際保健プログラムの  
フェロー募集

武見プログラムでは今年も下記のとおりフェローの募集をすることになった。希望者は日医ホームページ掲載の募集要項をご参照の上、ご応募願いたい。

◆派遣期間：2019年8月~2020年6月（11カ月）  
◆募集定員：2名まで  
◆派遣費用：往復旅費、滞在費の一部支給  
◆応募資格：原則として

40歳未満の医師または保健医療分野の研究者。ただし、現在米国に滞在中の方、他の団体等から奨学金を受けている方は、応募対象とならない。

◆応募方法：応募者は、応募書類（①研究概要兼カバーレター（和・英、各A4判1枚）②研究計画書（和・英、各A4判5枚以内）③英文推薦状3通（推薦者3名）④履歴書（和・英）⑤英文著書、英語論文リスト（主要論文を1、2編添付）⑥英語能力を客観的に証明するもの（TOEFL:IBTで100以上もしくはIELTS:7以上「英語指導による学位プログラムを登録された学生として修了した学術機関の書類等」）「ハーバード大学を卒業している場合には、卒業の日付と学位」⑦日本における連絡先（自宅及び勤務先、和文）を取りまとめ、それぞれ

PDFにして、メールで日医国際課までお送り願いたい。

◆応募期限：2019年1月14日（月）まで  
◆選考：第1次審査（書類選考・2019年2月）後、合格者に対して3月頃に東京で第2次審査（面接）を行う

◆応募・問い合わせ先：日医国際課 (jiaintl@do.med.or.jp) ☎03-942-6489、☎03-3946-6295

# 南から北から

奈良県  
奈良県医師会新報  
Vol.787より

## 夏に遊んだ思い出が 今や……

赤井 靖宏

夏休みは自由に遊べる  
ことが楽しみであった。  
いわゆる「ど田舎」であ  
る私の近所には1学年1  
〜2名くらいの子ともし  
かいなかった。遊ぶ  
相手はいつも決まってい  
た。私の家の隣に4つ上  
の「お兄ちゃん」が住ん  
でいた。

「夏休みは自由に遊べる  
りです」と言うその人は  
まさにお兄ちゃん。お  
兄ちゃんは大学卒業後に  
私達と同業界の某企業に  
入り、多くの重要プロジ  
ェクトを手掛け、ヘッド  
ハントされること3回と  
いう業界での超エリート  
になっていた。  
立場が全く変わってし  
いた。

「夏休みは自由に遊べる  
りです」と言うその人は  
まさにお兄ちゃん。お  
兄ちゃんは大学卒業後に  
私達と同業界の某企業に  
入り、多くの重要プロジ  
ェクトを手掛け、ヘッド  
ハントされること3回と  
いう業界での超エリート  
になっていた。  
立場が全く変わってし  
いた。

「夏休みは自由に遊べる  
りです」と言うその人は  
まさにお兄ちゃん。お  
兄ちゃんは大学卒業後に  
私達と同業界の某企業に  
入り、多くの重要プロジ  
ェクトを手掛け、ヘッド  
ハントされること3回と  
いう業界での超エリート  
になっていた。  
立場が全く変わってし  
いた。

富山県  
富山市医師会報  
No.559より

## 形成外科に魅せられて

山口 梨江

私がまだ医学部の学生  
で、ポリクリと呼ばれて  
いた臨床実習の時のこと  
である。将来の診療科を  
決めるに当たって、昔か  
ら工作など細かいことが  
大好きだった私は、ぼん  
やりと「形成外科」とい  
う科に興味があった。

私がまだ医学部の学生  
で、ポリクリと呼ばれて  
いた臨床実習の時のこと  
である。将来の診療科を  
決めるに当たって、昔か  
ら工作など細かいことが  
大好きだった私は、ぼん  
やりと「形成外科」とい  
う科に興味があった。

私がまだ医学部の学生  
で、ポリクリと呼ばれて  
いた臨床実習の時のこと  
である。将来の診療科を  
決めるに当たって、昔か  
ら工作など細かいことが  
大好きだった私は、ぼん  
やりと「形成外科」とい  
う科に興味があった。

私がまだ医学部の学生  
で、ポリクリと呼ばれて  
いた臨床実習の時のこと  
である。将来の診療科を  
決めるに当たって、昔か  
ら工作など細かいことが  
大好きだった私は、ぼん  
やりと「形成外科」とい  
う科に興味があった。

長崎県  
長崎市医師会報  
第614号より

## 私の本棚

高原 浩

自分で初めて買った本  
棚は、ガラガラとした板  
で作ったミカン箱であっ  
た。これに本を並べて本  
棚にしたのである。本を  
入れたら、取り出しやす  
い。これからは術野で起  
こっていること全てを見  
逃さないこと。これが一  
番肝心。

自分で初めて買った本  
棚は、ガラガラとした板  
で作ったミカン箱であっ  
た。これに本を並べて本  
棚にしたのである。本を  
入れたら、取り出しやす  
い。これからは術野で起  
こっていること全てを見  
逃さないこと。これが一  
番肝心。

お兄ちゃんとは同じ中  
学、高校であったが、4  
年の学年差で同じ時期に  
通うことなく時が過ぎ  
た。私が医学部に入った  
頃、お兄ちゃんは外国の  
企業に勤めているらしい  
と両親から聞いた。

お兄ちゃんとは同じ中  
学、高校であったが、4  
年の学年差で同じ時期に  
通うことなく時が過ぎ  
た。私が医学部に入った  
頃、お兄ちゃんは外国の  
企業に勤めているらしい  
と両親から聞いた。

お兄ちゃんとは同じ中  
学、高校であったが、4  
年の学年差で同じ時期に  
通うことなく時が過ぎ  
た。私が医学部に入った  
頃、お兄ちゃんは外国の  
企業に勤めているらしい  
と両親から聞いた。

お兄ちゃんとは同じ中  
学、高校であったが、4  
年の学年差で同じ時期に  
通うことなく時が過ぎ  
た。私が医学部に入った  
頃、お兄ちゃんは外国の  
企業に勤めているらしい  
と両親から聞いた。

形成外科は、「必ずし  
も必要でない科」とく  
られてしまうことも多  
く、実際に大きな大学病  
院や総合病院でも無いと  
ころはまだ多くある。し  
かし、私は、形成外科は  
本当に魅力あふれた科だ  
と思っている。形成外科  
をできるだけ多くの方に  
知ってもらおうと、1人  
1人、1針1針、丁寧に  
診療することからやって  
いきたいと思っている。  
(一部省略)

# 勤務医のページ

## 勤務医委員会答申

### 「勤務医の参画を促すための地域医師会活動について」

～その1～

勤務医委員会（委員長：泉良平富山県医師会副会長）は、会長諮問「勤務医の参画を促すための地域医師会活動について」に対する答申を取りまとめ、5月16日、横倉義武会長に提出した。同答申の概要を2回に分けて掲載する。

会若手医師専門委員会企画・運営による「勤務医交流会」の開催として実現した。

## II 提言

### 1. 医師の働き方改革についての継続的な取り組み

(一) 取り組みの必要性と課題

医師の働き方改革は、まさに勤務医の問題であり、本委員会は、医師の働き方改革が適切に進められるよう、地域医師会と協力しながら、さまざまな取り組みを行う必要がある。

## I 勤務医委員会活動について

勤務医が広く参集する場において理解と協力を得るために、「全国医師会勤務医部会連絡協議会」や「都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会」との連動性を意識した運営を行った。

また、本委員会委員長及び副委員長を含む4名が、会内の「医師の働き方検討委員会」に委員として参画（同委員会副委員長を勤務医委員会委員長が務めた）し、勤務医の立場から、日医の「医

師の働き方改革」に関する取り組みに資するよう努めた。

その中では、各ブロック医師会の推薦を受けて本委員会に参画している委員を通じて、地域医療を守る視点で調査を実施し、その結果の概要を「医師の働き方検討委員会」に報告した。

前期の本委員会答申で提言した、全国医師会勤務医部会連絡協議会の翌日に「ブロック代表者会議」を行うことについて、平成29年度と同協議会の翌日、北海道医師会主催、同医師会勤務医部

会若手医師専門委員会企画・運営による「勤務医交流会」の開催として実現した。

には、継続的に状況を把握し対策を立てる必要がある。

とりわけ、研修医の日医への入会は、働き方改革に対する日医の立場を医学学生や研修医がどのよう受け取るかによって大きく変化する可能性がある。特に、1年目の研修医の入会状況と、会費無料が終了する3年目の医師の医師会員としての継続状況は各地域医師会単位での確に把握することが求められる。また、必要に応じて、研修医の日医に対する見方や要望に関する調査等を行い、さまざまな対策を講じる必要があると考えられる。

(4) 各学会との協力・共同について

働き方改革と診療科の偏在は大きく関係すると考えられるが、この点についての実態が不明である。日医がインシアチブをもって各診療科の実態や意見を集約し、提案を行うことが求められていると考えられる。

具体的には、まず、日医が各学会に対して医師の働き方に関する調査を行うことが必要であると考えられる。また、各学会との共同のシンポジウムの開催や、学会単位でのシンポジウムの開催を要請することも有効である。

(2) 方法としてのブロック医師会を中心としたフレームワークの活用

医師の働き方改革に関して、各ブロック医師会より推薦を受けて参画している委員を通じて勤務医の意見集約を行った。今回の調査では、多くの不安や懸念が示されるにとどまらず、今後、具体的対応を議論する場を構築する役割を本委員会も担う必要がある。

今後、ブロック医師会を中心としたフレームワークを強化し、勤務医活動の基本的なシステムとして活用していくことが求められる。特に医師の働き方に関しては、医療勤務環境改善センターの強化と活用の促進に関して、各都道府県医師会が中心となり積極的に運用することが望まれる。この点に関しては、日医「医師の働き方検討委員会」においても分析・検討が行われており、本年4月に発表された同委員会答申を参考に、各都道府県医師会の勤務医部会等で議論を行い、実情にあった取り組みを早急に進めることが求められている。

また、地域医療を守り、救急医療を守るためには地域医師会のさまざまな取り組みや援助が必要となる。本委員会としても、実態の把握、先進例などの情報発信、また進捗状況の調査と必要な改善策の提案などを継続的に行う必要がある。

(3) 働き方改革が及ぼす日医組織率への影響の把握と対策

働き方改革が及ぼす日医組織率への影響の把握と対策

働き方改革が及ぼす日医組織率への影響の把握と対策

(5) 日本医学会総会で医師の働き方改革に関するシンポジウムの開催

「第29回 日本医学会総会 2015 関西」では、本委員会の企画によるセッション「勤務医と地域医療連携」が実現し、多くの医師の参加を得た。「第30回 日本医学会総会 2019 中部」においても、本委員会の企画として、医師の働き方改革に関するシンポジウムを開催し、この問題に関する議論を深めることに貢献していきたく考える。

医師の働き方改革に関しては、改革が進み特別な対応が必要でなくなるまでは、このような取り組みを継続的に行う必要がある。

(6) 地域医師会役員への勤務医の登用と活躍の場の提供

医師の働き方を考えるためには、地域性にも十分に配慮する必要がある。そのため、地域医師会は地域の現状や病院の実態を熟知する勤務医を地域医師会役員として登用し、力を発揮してもらうべきであろう。

また、地域医療に貢献するモチベーションをもつ勤務医に対して、積極的に医師会活動への参加を促すことが課題となる。医師会活動に参加する勤務医のリーダー的な医師に関しては、積極的に役員に迎え、地域医師

会を更に強化することが求められている。

2. 大学医師会の現状の把握と対策

平成29年度勤務医会員数・勤務医部会設立状況等調査によると、平成29年11月1日現在、65の大学医師会が設立されている。

一方、日医医師会組織強化検討委員会が実施した「大学医師会に係る現状調査（平成29年11月）」では、専属の職員がいないとの回答（「大学職員が兼務」と「いない」の合計）が55・1%にも上っている。

その理由については、「人件費の負担が大きい」「専属の職員を置くまでの業務量はない」との回答がそれぞれ53・1%と最も多かった。

また、「医師会組織強化の観点から、日医に要望する事項」に対する回答では、「勤務医の労働環境改善の取り組み強化」が58・6%と最も多く、「医師会活動の意義・メリットの明確化」が50・0%、「勤務医の意見が反映できる体制づくり」が48・3%と続いた。

日医としては、これらの現状や要望に基づき、大学医師会への支援を更に深化させていくとともに、その成果を大学医師会に対してより一層周知していくことも重要である。

他方、長崎県医師会では、長崎大学医師会に入会している勤務医に関しては、県内で他の勤務地に移動しても、新たな入退会の手続きを要しないという運用を行っており、勤務医の入会・定着に効果を上げている。大学医師会と連携を深めることによって、研修医の入会が促進できるものと思われる。大学医師会への援助としては卒業生への記念品贈呈、研修医の自己学習ツールの補助、研究者への助成金補助、県内の学会への寄付、大学医師会の要望や質問を行政に伝達、保育サポート整備など、アイデア次第でさまざまな取り組みができる。

医師国保、医師信用組合、医療紛争処理の他、個人の資格習得のための種々の講習会の実施や援助（産業医、認知症サポート医、難病指定医など）、日医学図書館の利用、生涯教育協力講座の開催、医師資格証などについては情報提供が十分とは言えない。

このように、医師会が勤務医に提供している活動は多く、これらについて勤務医に広く情報提供すべきである。

日医や都道府県医師会が、大学医師会の活動費用の援助を含めた必要な支援を行う中で、こうした取り組みを全国に広げていくことも重要であると考えられる。

日医や都道府県医師会が、大学医師会の活動費用の援助を含めた必要な支援を行う中で、こうした取り組みを全国に広げていくことも重要であると考えられる。

日医や都道府県医師会が、大学医師会の活動費用の援助を含めた必要な支援を行う中で、こうした取り組みを全国に広げていくことも重要であると考えられる。

日医や都道府県医師会が、大学医師会の活動費用の援助を含めた必要な支援を行う中で、こうした取り組みを全国に広げていくことも重要であると考えられる。

日医や都道府県医師会が、大学医師会の活動費用の援助を含めた必要な支援を行う中で、こうした取り組みを全国に広げていくことも重要であると考えられる。



勤務医の組織率の向上